

沖縄の未来へ、確かな実績で！



ミヤザキ家の保護猫もちです
皆様のおかげです
12年の実績🐾

弁護士国会議員

ミヤザキ政久
まさひさ

私たちもミヤザキと共に！！

浦添市長 松本 哲治

宜野湾市長 佐喜真 淳

沖縄県議会議長 中川 京貴

沖縄県議会議員 島尻 忠明

沖縄県議会議員 呉屋 宏

沖縄県議会議員 又吉 清義


沖縄県議会議員 宮里 洋史

沖縄2区
浦添市 読谷村
宜野湾市 西原町
北谷町 中城村
嘉手納町 北中城村

自民と公明の確かな絆！

選挙区はミヤザキ

比例区はこうめい

内部資料

\\ ここまでやれる ミヤザキなら //



公費で県内ホームステイ
(まちなか留学)の公約を実現！



2021年の衆議院総選挙で



「沖縄の子どもたちに公費での県内ホームステイを実現する！」と公約しました。

「大人が子どもに残せるものは教育しかない」という信念があります。
「みんな英語が話せる沖縄になったらいいのに」の言葉に背中を押されました。



当選して政府と交渉！

当選して直ちに自民党沖縄振興調査会の役員となり、内閣府、文部科学省などと交渉しました。官邸にも出向きました。その結果、「沖縄国際交流体験促進事業」が実現。まちなか留学として、沖縄の子どもたちに、公費での県内ホームステイを実現することができました。

そして

\\ 現在、県内ホームステイは年間5000人が体験中！ /



沖縄には基地の内外に多くの外国人家庭が存在します。外国人ファミリーに協力してもらえば、海外に行かなくても県内で簡単にホームステイができる。旅費、滞在費など経済的負担もかからない。沖縄ならではの恵まれた環境を最大限に活用し、子どもたちに教育をつけてあげたいのです。

子どもたちは、このホームステイを通じて、「僕にも、私にも出来た！」という成功体験を積むことができます。この成功体験が沖縄の子どもたちに、何事に対しても勇気と情熱を持つ大きなきっかけになると確信しています。現在2年目。県内すべての小学校、中学校、高等学校で申込書を配布し、小学校3年生から高校3年生まで年間5千人が体験中。

まだ参加されていない方は、是非、「まちなか留学 県内ホームステイ」を体験してください。

その先

沖縄の未来は子どもたちの手に。
誰もが羽ばたける環境を作っていきましょう！



ミヤザキ政久 まさひさ 4期12年の実績



膝について

琉球大学病院の建設費用が物価高騰の影響で120億円不足。岸田総理に膝について直談判し、120億円の追加予算を獲得。

政府と闘ってでも

米軍施設の存在で白比川の拡幅ができず床上浸水する北谷町謝苺自治会の要請を受け、小野寺防衛大臣に現地直接交渉し、米軍施設に食い込ませた河川改修を実現。

怒りの訴え

認可外保育園への公費での防音工事を実現。当時、認可外保育園は防音工事の対象とされていなかった。「認可園に通う子どもと認可外に通う子どもに何の違いもない。理不尽だ」と国会で訴え、制度改正を実現。

出来ないことではない

西原町千原自治会の要請を受け沖縄自動車道の防音壁を延長。誰に頼んでも「出来ない」と言われたという自治会長の言葉に発奮して、知恵を絞り実現しました。

連日のテレビ出演

旧統一教会被害救済法案の成立に際し、与党の実務担当として、毎週テレビの討論番組に出演し、国民の皆様への説明に尽くしました。

市町村長との連携

台風被害対応で、浜田京介中城村長(当時)のもとへ。国ができること、市町村ができることをすり合わせ。中城村は比嘉麻乃村長に代わりましたが、変わらず連携を図ってまいります。

地域の伝統の継承

読谷村喜名の地パーリー。運動会で一番盛り上がる競技の一つです。地域の伝統を自治会の皆さんや市町村と協力してしっかりと継承していくことも大切な仕事です。

財務大臣に直接交渉

西原町議員団とともに国道329号西原バイパスの予算要請を麻生太郎財務大臣と直接交渉。予算確保で事業化しました。

地元の要望を実現

国道58号に面した嘉手納飛行場第1ゲート移設を実現。地元自治会、北谷町の議員団、中川京貴県議と一緒に行動した成果です。

裏方で仕事する

浦添市屋富祖公民館、宜野湾市上大謝名公民館をはじめ、選挙区内のすべての公民館建設で国の予算を確保しています。目立たないけど大切な仕事です。

ふたりの市長と共に

国道330号の渋滞を解消する市道宜野湾11号が開通。宜野湾市の佐喜真淳市長、松川正則市長と連携して取り組んだ成果です。

農業・漁業振興

アサは北中城村の名産の一つ。アサの不作を聞きつけ、自ら海に入って、収穫のお手伝い。現在では牡蠣の養殖の実証実験も始まりました。農業、漁業の発展も重要な政策課題です。

官房長官に直接要請

嘉手納町をあげて富山宏町長、仲村兼栄議長、中川京貴県議とともに要請。松野官房長官のもとへ町民の思いを伝えています。地元の国会議員としては特に力が入る場面です。

厚生労働副大臣として

厚生労働省の仕事は、健康・医療・福祉・介護、年金、雇用、労働など皆様の毎日の暮らしと人生に密接に関連します。

この一年間、厚生労働副大臣として、誰もが豊かで安心して暮らせる社会へ、生きがいを持って働ける社会へと懸命に取り組みました。



賃上げを実現しました



賃上げは厚生労働副大臣として最大のミッションでした。沖縄はもちろん全国で「地方版政労使会議」を開催し、最低賃金は、全国で1,055円、沖縄で952円にアップしました。

中小企業支援として、各種支援策を用意し、公共工事の労務費単価も引き上げました。また、年収の壁を越えても手取りが減らない支援策を導入するとともに、児童手当は所得制限を撤廃し、高校生まで延長するなど制度を大きく拡充しました。

遺骨の仮安置室の設置



「沖縄の御遺骨の仮安置室を増設して欲しい」と要請を受け、約5000万円の予算措置を就任後直ちに実現しました。

沖縄平和記念財団理事長とともに、国立沖縄戦没者墓苑にて献花をするとともに、仮安置室を増設する旨ご先祖様にご報告しました。

介護関係者とともに



介護報酬の改定を行いました。介護分野で働く皆さんの処遇改善にはまだまだ力を尽くす必要があります。介護分野の職場環境の充実は誰もが安心して歳を重ねることができる社会への第一歩です。意見交換の場では現場で働いている皆さんのホッペを大切にしています。常に現場主義です。

能登半島地震への対応



元旦に発災した能登半島地震。すぐに上京し、それ以降1ヶ月以上沖縄に戻ることなく厚生労働省対策本部に詰めて、土日もなく災害対応に奔走しました。現地にも足を運び、被災された方の話もお聞きし、常に寄り添う心をもって対応し続けました。

琉球大学病院がスタート



琉球大学病院が、来年1月、西普天間地区跡地で開院します。国際健康医療拠点としてOISTと連携し、県民が沖縄にいながら最先端医療を受けられます。さらには、「こどもまんなかwell-beingセンター」の機能も加えて、沖縄の子どもたちの心身の健康を全面的にサポートします。

海外でも沖縄をPR!



スイスでのILO総会やブラジルでのG20労働大臣会合などに政府を代表して出席。イタリア、インドネシア、ベルギーなど各国訪問の際には必ず、読谷花織や浦添織のタペストリーを贈呈。沖縄の県産品PRも忘れません!

